

9.人と自然が共生できる地域づくり



基本方針

心安らぐ自然と人間とが共存するまちづくりが望まれています。

そのため、市民だれもが楽しみながら安全に自然に触れることのできるまちづくりを進めます。

長期的な視野に立って、生命あふれる里山・里地の整備や、身近に遊べる水辺の保全、鎮守の森を守る地域づくり等、自然環境の大切さを感じることのできる拠点づくりを行います。

現状と課題

大和三山・飛鳥川・藤原宮跡等の素晴らしい環境は、歴史や文化の遺産であるだけでなく、身近に多様な生き物を育んできました。しかし、このような里山・里地は、定期的に人間が手を入れることで、微妙な調和が保たれてきた環境でもあります。近年は、手入れが行われなくなりつつあるため、生き生きとした里山・里地を再生し、守ると同時にそこから得られる様々な恵みを生かし、地域に役立てていくことが必要です。

本市では、「橿原市景観計画」・「橿原市緑の基本計画」・「大和川清流ルネッサンスⅡ」等の計画に基づき、緑地等の保全や景観の整備が進められていますが、まだ十分に活用できているとは言えません。

そこで今後は、長期的な視野に立って、子どもたちを中心に地域住民が安心・安全に自然と触れることのできる里山・里地の整備やその利活用、飛鳥川など身近に遊べる水辺環境の保全、大和三山をはじめとする鎮守の森や林を守る取組を、ボランティア団体等と協働で進めることが重要です。

多様性の高い自然環境を守り、循環的に利用できる仕組みづくりが必要です。

施策指標

指標名	実績値			目標値
	H16	H17	H18	H24
自然保護対策について満足している市民の割合	—	—	14.5%	20.0%以上
自然保護対策について不満と感じている市民の割合	—	—	18.8%	10.0%以下
市民一人当たり都市公園面積	6.09㎡	6.12㎡	6.25㎡	7.0～8.0㎡

今後の取組

1 自然環境の大切さを感じる拠点づくり

温室効果ガス等の排出が原因とされる地球温暖化などにより、自然環境が大きく変化しています。また、ライフスタイルが多様化し、これからの社会を担う子どもたちが自然から次第に離れていく傾向にあります。昆虫や野生生物等に関する特別展、企画展等の展示事業の充実を図り、生物調査や観察会等の環境教育を普及するための事業を実施し、昆虫館を自然環境や生態系について学習する拠点として活用していきます。

- 特別展・企画展事業
- 野外観察会事業

2 虫いっぱいの中山づくり

昆虫館周辺の雑木林において、「虫いっぱいの中山」を目指して、ボランティアグループと協力しながら、雑木林の整備作業や観察会・研修会等を実施してきました。

今後は、もっと広く情報発信や啓発を行い、活動や組織の充実を図るとともに、市民団体や近隣の行政・企業等と連携し、協働で事業を進めます。

そして、遊びや生活・体験へと事業の幅を広げるとともに、様々な世代が長くかかわれる仕組みを作ります。

- 虫いっぱいの中山づくり事業



虫いっぱいの中山づくり事業

3 水遊びのできる川づくり

地域住民の水質保全にかかわる意識の高揚を図るとともに、水遊びのできる川づくりを目指して、飛鳥川流域の5市町村が一体となって生活排水対策に関する各種事業を実施してきました。

今後は、水辺環境に関するボランティア団体等と協働で事業を進め、情報発信する等の取組を行います。

- 水辺環境に取り組む各種団体との連携事業

4 鎮守の森を守る地域づくり

生物等の調査や自然環境の再生・保全を行うNPOや市民団体と協働で事業を進めていきます。

そして、大和三山をはじめとする鎮守の森での活動に関する情報を発信し、中山・里地の生産物の活用や観光資源としての有効利用を図っていきます。

- 大和三山での生物調査事業

5 自然と共生できる環境づくり

景観形成や環境保全、防災に重要な役割を果たしている農業の多面的機能が見直されてきています。

これからもその機能を維持・発揮させるため、ため池・用水路の環境に配慮した整備を進めるとともに、農業・農地を守る取組を行います。

市民等との役割分担

市民は、大和三山をはじめとする鎮守の森や飛鳥川等の河川において、生き物や自然・環境に関する調査への積極的な参加や川や森を蘇らせる自然再生活動への継続的な参加が期待されます。

また、自然は常に変化していくものです。地元の自然を常に見つめ、その時、その場に応じた環境の管理や整備を実施していくことは、地域住民にしかできません。地域住民が、長く活動し、また、活動を通じ相互の交流や連携を図ることが期待されます。